

合同会社ヒーローズ

野球人能力測定システムの事業化を実現

光電管式センサー、加速度センサー、3軸ジャイロセンサー、スピードセンサー、反応速度センサーを導入



■ 野球能力に特化した測定データの提供でFC事業を展開

合同会社ヒーローズは平成24年に創業し、27年に法人化した。一般向けとアスリート向けのパーソナルトレーニング、野球人能力測定システムの事業を行っている。

一般向けとアスリート向けのパーソナルトレーニングでは「聴く」「測る」「緩める」「整える」「運動する」という5項目を設定。一人ひとりの夢や目標を聞き、測定を行う。そして「緩める」「整える」「運動する」の項目の中から、最適なメニューを作成し、実行する。例えば「緩める」の項目では、メディセルという機器を使い、皮膚や筋膜を吸引しながらマッサージすることで、関節が持つ本来の動

きを引き出す。指導の基本は、体力や動き、イメージを「きたえる」ことと、数値化や視覚化、感覚化で「みえる」ことを柱に、パフォーマンスを最大化させることにある。

同社で新たに取り組んだのが野球人能力測定システムだ。野球の指導者は効率的な指導を行いたい、方法が分からない。一方で選手本人は野球選手として成長するためのきっかけを求めている。野球能力に特化したデータがあれば指導や練習に利用でき、大きな需要が見込める。そこで測定システムの構築、代理店による全国的なビジネス展開を目指した。

実施背景

効率的な指導への回答がない

かつてのスポーツ指導の根底にあったのは「我慢」や「根性」という言葉に象徴される精神論だった。野球で走り込みや投げ込みをむやみに行う指導は過去のものになったが、指導者が効率的な指導をしたいと思っても、方法が分からなくて困っている。一方で選手自身は野球選手として成長するためのヒントを求めている。そこにデータシステムに対する需要があると考えた。

実施内容

野球に特化したデータを集積

野球に必要なスピードとパワーに関する全18項目を測定する。計測には光電管式などのセンサーを用い、手動による誤差のない公正なデータを追求した。測定したデータはクラウド上のデータベースに蓄積され、パソコンやスマートフォンでいつでもどこでも確認できる。数値として「見える化」することで、具体的なトレーニングや選手自身の意識の向上に繋がる。

事業成果

数値を意識して姿勢が変化

平成28年12月時点で、中学・高校・大学など37チームがシステムを導入し、1,500人のデータを集積している。導入したチームでは選手が数値を意識して練習に取り組むようになったという。走る速さで0.1秒の差は距離にして1mか1.5m。その差がアウトかセーフの違いになる。それが分かると練習の姿勢が変わってくる。ビジネス面でもFC展開を進めており、評価は非常に高い。



企業から一言

選手の練習に役立ち、ビジネスとしても好調。野球界に貢献したい

基礎体力の項目をすべて省き、野球に必要な18項目の能力を測定する新たなプログラムを開発しました。指導者からは選手のパフォーマンスアップに繋がると好評です。FCに関しても初期投資が低く、収益性が見込めることから高い評価を得ています。「面白いからぜひやりたい」と加盟していただ

き、導入したチームにも加盟企業にも喜ばれています。今後はデータ数の増加と加盟企業へのサポートに力を入れ、ビジネス基盤を確立することが目標。指導の根拠になるデータの構築を通じて野球界に貢献していきたいですね。

代表 伊藤 博一



事業者の概要

代表者名	伊藤 博一
設立年月	平成27年1月
所在地	〒700-0971 岡山県岡山市北区野田2丁目3-31
TEL/FAX	TEL.086-230-6988
URL	http://heroes.main.jp/
資本金額	100万円
従業員数	2人
業種	野球専門測定・野球指導・トレーニング指導
事業計画名	パーソナルトレーナーの知見を活用した野球能力測定サービスの開発